

ふるさと Something NEWS

第20回

スポーツかユニフォームか？ ——ラグビーと野球の監督の役割の違い

一般社団法人 洗楓座
一般社団法人 e f c o . j p
代表理事 佐藤 建吉

▼W杯&日本シリーズ

最近の話題で熱いのは、ラグビーW杯であった。「日本」は、実力を上げていくことは感じていたが、準々決勝進出を、誰が予想していただろうか？残念ながら、その試合は大差で敗れたが、選手の清々しさが残った。ところでラグビーの監督はユニフォームではなくスーツ姿である。これはサッカーでも同様であり、監督は、外見上では選手とは異にしている。また監督は、ピッチには入れないことになっている。

▼ラグビーと野球の対戦構造の比較

筆者は、ラグビーの経験はないのであるが、試合前までにトレーニングを行い、相手陣への戦略を頭と体に備え試合に臨む。監督(ヘッドコーチ)の選んだ選手でフォーメーションを構成し、試合が開始される。監督は、ピッチには入らず観客席で監視する。試合中の指揮は、監督がキャプテンにマイクロフォンなどで、指示を与え、選手はチームとして試合前の戦略や自身の経験を活かして、臨機応変、瞬間判断で試合を運ぶ。

左図の上には、ラグビーと、選手の眼はいつも監督を向いているようにさ運ぶにおける、監督(ヘッドコーチ)の指揮系統を概略図とした。監督は、試合経過を見て、キープテンを通じて、選手(A1~A15)に助言を与えることができる。それは、AB両チームで同じであるが、現場の選手たちのなかば自己判断で瞬間々々の駆け引きのプレーが行われ、成功や失敗の感動を生む。が、既定の時間とともに勝敗の結果が決まる。

左図の下には、野球の場合の監督による指揮系統を示している。野球では監督が、極論すれば、選手の一挙手一投足に指示を与える。甲子園での高校野球を見ている

野球の監督はユニフォームを着る方が相応しいといえるが、ラグビーやサッカーの監督がユニフォーム姿でもよさそうだが、スーツを着ること

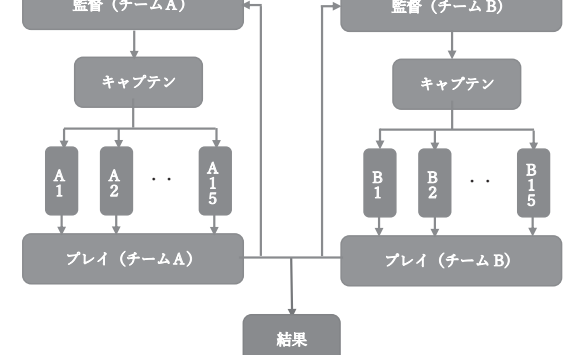
が、スーツを着ることは、その発祥の背景にありそう。ラグビーもサッカーもイギリスで誕生したといい、いわゆる紳士の国の威風が関係している。その話は、さておき、筆者は、指揮系統における相違が、合理性とあってスーツやユニフォーム定着していると論じている。この着衣の相違については、スポーツ以外の場合についても分類や特徴を見出すことができる。

まず、初めに思うのは、防災訓練(通常9月1日)での総理や知事の真新しい作業服姿である。行政官としての総理や知事の、真新しい作業服と軍手、それに長靴とヘルメット姿には違和感がある。特に、女性知事の真新しい作業服はむしろ不安を覚える。が、現場指揮の長たちの着慣れた作業服や装備姿は、防災訓練においても安心感と信頼感を与えてくれる。これは、男女雇用機会均等法の下での女性現場職員や隊員の作業服、ユニフォーム姿を否定するものではない。あくまで、現場対応でないカタチだけの外装には不自信が伴う。

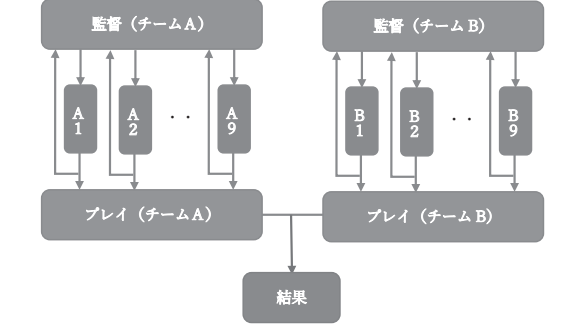
次に、同様のことが、例えば、自動車会社の社長による工場視察においても見受けられるという。工場には産業ロボットが導入されているが、現場を預かっているのは、工場長以下、多種の作業者たちである。いわゆるブルーカラーの聖域である。ホワイトカラーの社長は例えエンジニア出身であっても、現場視察は、スーツのままが相応しい。軽々に真新しい作業服を着て工場視察をしたとしても自動車会社の経営は改善されないだろう。

むしろ職務の違いをわきまえて、本務に徹することと表現・主張するのが正しいといえる。関連計画が大事であり、その実施、遂行に当たって、自衛隊の指揮権をもつ文官の総理大臣が、迷

この時期、もう一つ話題なのが、プロ野球の本シリーズである。これも新たな感動を創り出している。クライマックス戦などというのがあり、昔よりは複雑になった日本シリーズ。日本一を目指して勝負が行われる。野球ではプロ野球だけでなく高校の甲子園でも、監督はユニフォームを着て、選手の力を引き出し、得点を獲得するための駆け引きが行われる。話題のラグビーと野球では、監督の服装に差があることに着目



図：ラグビーと野球での監督の指揮系統の比較 (上：ラグビー、下：野球)



は、理解と経験が必要とし、結果、なる。同時に、現場には常に変化と新局面がともなう。監督に相当する指揮者は、現場への過度の介入でなく、経験を通じて知識を活かし、望ましい結果を創り出す深慮も大事である。

▼現場ファーストが重要

今回は、ラグビーと野球の監督に服装の違いについて着目した。その局面には、上図に示したように、指揮する側と、指揮される側の二極があり、その環境の下で相応しい結果をつくるために、両者が協働できる服装となつていくことを述べた。

大事なことは、多数の人が関わる試合や仕事において、現場での対応が適切に敏速に、しかも協働的に行われる環境づくりである。現場作業においては、事前の準備と重なるが、その「現場」を大切にする原点であるとし、結果、

蛇足ながら、地方や地域、あるいは故郷においては、その地の気候や風土が独特の文化を創り出してきた。この理解と尊重が、その「現場」を大切にする原点であるとし、結果、

なる。同時に、現場には常に変化と新局面がともなう。監督に相当する指揮者は、現場への過度の介入でなく、経験を通じて知識を活かし、望ましい結果を創り出す深慮も大事である。

今回の記事は、ラグビーと野球の監督に服装の違いについて着目した。その局面には、上図に示したように、指揮する側と、指揮される側の二極があり、その環境の下で相応しい結果をつくるために、両者が協働できる服装となつていくことを述べた。

大事なことは、多数の人が関わる試合や仕事において、現場での対応が適切に敏速に、しかも協働的に行われる環境づくりである。現場作業においては、事前の準備と重なるが、その「現場」を大切にする原点であるとし、結果、

蛇足ながら、地方や地域、あるいは故郷においては、その地の気候や風土が独特の文化を創り出してきた。この理解と尊重が、その「現場」を大切にする原点であるとし、結果、

なる。同時に、現場には常に変化と新局面がともなう。監督に相当する指揮者は、現場への過度の介入でなく、経験を通じて知識を活かし、望ましい結果を創り出す深慮も大事である。

今回の記事は、ラグビーと野球の監督に服装の違いについて着目した。その局面には、上図に示したように、指揮する側と、指揮される側の二極があり、その環境の下で相応しい結果をつくるために、両者が協働できる服装となつていくことを述べた。

連載・イベント